

比較項目	バングラ ディッシュ	中国	コメント
品質	○	◎	バングラディッシュはユニクロなどの大手メーカーも進出するほどの品質。しかし、実際にその目で見ないことには分かりません。だからこそ今回の視察ツアーにてその目で確認してください。
人件費	◎	○	中国の工員一人当たり人件費が月2～3万円に対してバングラディッシュは月5000円である。この人件費の安さの背景にはバングラディッシュの40%を超える高失業率からくる豊富な労働力と国連の最貧国に指定されるほどの財政難がもたらしている。
納期	△	○	地理的關係上や機械化の遅れから、やはり中国の約2倍はかかってしまう。つまり、バングラディッシュに合う商品はスピードが命のトレンド商品ではなく、同じ時期に安定的に売れる定番商品のOEMが適していると言える。この定番商品の仕入れ価格を抑える事により利益率を改善して、他店との商品競争力を更に強められてはいかがだろうか？
最小ロット生産	△	○	バングラディッシュはヨーロッパ系の資本による大型の工場が多い。従って、従来では最少ロット3,000～5,000枚が限界であったが今回の視察では大型工場の視察はもちろん、これまで欧州や日本人があまり足を踏み入れなかった現地の最小ロット500枚から対応してくれる中小企業を視察して頂く。
関税	◎	○	バングラディッシュは国連で指定されたLDC (Least Developed Countries) であるため、日本へ輸入するほとんどの製品に特別特惠税率が適用されるため関税は0%！ちなみに特別特惠税率が適用されていない中国などではTシャツであれば14～16.8%の関税率が掛けられている。
日本との相性	◎	△	バングラディッシュにとって日本は最大の経済援助国と言う事や第二次世界大戦時に共にイギリスと戦ったなどの歴史的背景の元、国民は非常に親日家が多い。また、中国の国民性として再現性の低さが『モノづくり』において一番のネックになっているがその点をバングラディッシュはカバーしていると言える。